

「保険でより良い歯科医療を」 愛知連絡会ニュース

「保険でより良い歯科医療を」
愛知連絡会
〒466-8655
名古屋市昭和区妙見町19-2
愛知県保険医会館内
TEL ; (052)832-1349
FAX ; (052)834-3584

「保険のまき範囲を拡げて」 中区・栄でいい歯の日街宣

「保険でより良い歯科医療を」愛知連絡会は、11月8日（いい歯の日）に、名古屋市中区・栄で街頭宣伝を行いました。

宣伝は、午前中からばらばらについていた雨が止んだ午後二時から開始。街頭を行き交う人達に、大藪憲治会長、江原雅博副会長、水野雅代歯科衛生士が交代でマイクを握り、保険でより良い歯科医療の充実を訴えました。

特に歯科では、過去三十年間にわたり新しい治療法の保険導入がほとんど行われていないこと、保険による歯科治療でも技術料の評価が行われず診療報酬が据



マイクを握り市民に訴える江原副会長(上)、写真左は「歯の健康相談」の様子



え置かれていること、多くの歯科技工士が過酷な勤務と低収入により離職を余儀なくされ、歯科衛生士も雇用面で不安を抱えている実態について報告しました。歯の健康を保つことの重要性にもふれながら、保険の利く範囲を広げて必要な歯科治療は保険で行えるよう運動への理解を訴えました。

また、今回はチラシを配布する横に相談コーナーを設け、歯科医師による歯の健康相談のほか、簡易測定器を使用した口臭



ガムを噛んで咀嚼力チェック

チェック、出血や歯肉の腫れなどの歯周病チェック、ガムを使つての咀嚼力チェックも行いました。歯の相談コーナーには年配の方が、咀嚼力コーナーには親子で立ち寄る姿が見られました。

仕上げ磨きは何歳まで？！ 新日本婦人で健康講座開催

「保険でより良い歯科医療を」

愛知連絡会は、10月2日（木）午前11時から名古屋市名東区の藤ヶ丘生協の2階で、「お口の健康講話」を行いました。

今回は、新日本婦人の会名東支部の依頼で、講師は大藪憲治先生が務めました。

大藪先生は、0歳～2歳くらいまでの子どもを持つ母親を対象に、イオン飲料水にも糖分が多く含まれていること、口腔内を中性に戻しているのは唾液の働きであること、ガムな

どの「キシリトール入り」には100%でないものがあることなど、自らの経験を紹介しながら説明しました。

また幼児用歯ブラシの見本も示し、幼少期は歯ブラシに慣れさせることが重要であることを強調しました。参加者からは、「親の仕上げ磨きは何歳まで必要か」「三分磨くといわれるが、どの程度であればよいか」「顎が細くなっている歯並びに影響していると思うがどうしたらよいか」「歯科矯正に通う人も増えているが、自費なので費用が心配」

などの質問などが出されました。

大藪先生は質問に答えた後、最後に指しゃぶりや口呼吸についての留意点などを話して講話を終りました。



長野県で連絡会発足・結成総会開かれる

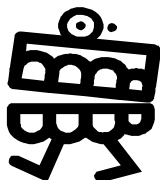
「保険でより良い歯科医療を」長野連絡会の結成総会が12月14日（日）午後2時から松本市Mウイングで開かれ、東京・千葉・愛知に続き4番目となる連絡会が結成されました。

長野連絡会には、保険医協会や民医連、商工団体連合会、新日本婦人の会などの他、県歯科技工士会、県歯科衛生士会が参加団体に加わっています。

総会当日は、松本歯科大学の宮沢裕夫教授による「より良く食べるはより良く生きる～健康づくりに直結する歯科医療」の記念講演に続き、歯科医療の現状について、歯科医師や歯科技工士などから厳しい実態について報告がありました。

総会に参加した大藪憲治愛知連絡会会長は「愛知では保険制度の矛盾を改善するという意味をこめて、会の名称を決めました。長野も愛知と同じ“より良い”歯科医療の連絡会です。ともに頑張りましょう」と発言しました。

最後に提案された活動方針や申し合わせ事項などが確認され終了しました。



全国連絡会・患者アンケートのまとめ

ご協力ありがとうございました

「保険で良い歯科医療を」全国連絡会（以下連絡会）は、歯科で混合診療拡大などの動きがある中で、2008年10月に「保険のきかない歯科治療に関する患者アンケート調査」を実施しました。

全国連絡会では、日本生活協同組合連合会医療部会、全日本民主医療機関連合会、全国保険医団体連合会に所属する歯科医療機関の患者など5000人に調査用紙を渡し、協力を依頼しました。愛知連絡会でも世話人団体に調査用紙を送りご協力をお願いしました。10月末までに全国連絡会に送られた1273人（回収率25.5%）の回答結果について、内容を紹介します。

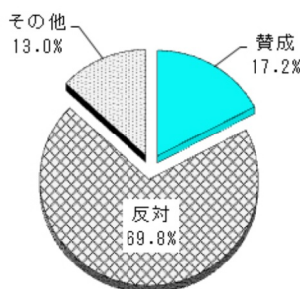
保険のきかない治療に反対70%

「健康保険のきかない歯科治療があることについて」は、反対69.8%、賛成17.2%、その他13%と回答し、

通常歯科治療で保険のきかない治療があることに対し強い不満が示されました。

年齢層では61歳～70歳代が最も反対の割合が高く、保険のきかない補綴治療に対する不満がうかがえます。

図1 保険のきかない歯科治療があることについて



新技術・材料の保険導入を

「保険のきかない歯科の治療や新しい治療技術・材料を保険に取り入れることについて」は、賛成83.3%、反対12.6%、その他4.1%と回答しており、多くの患者が新しい治療技術・材料を保険で行うことを望んでいることが明確となりました。

図2 保険のきかない治療や技術、材料を保険に取り入れることについて

賛成 83.3%

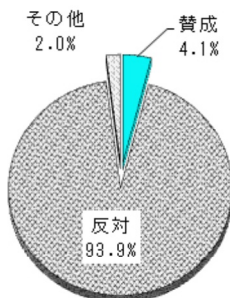
反対 12.6%

その他 4.1%

94%が歯科治療制限に反対

「政府が保険のきく歯科治療を制限しようとする事について」は、反対93.9%、賛成4.1%、その他2%と回答しており、ほとんどすべての患者が、保険のきく歯科治療を今以上に制限することには反対する意識が強く示されました。

図3 政府が保険のきく歯科治療を制限しようとしていることについて



「保険で良い歯科医療を」全国連絡会の第10回総会が、11月15日（土）午後2時から東京・新宿農協会館で開催されました。総会には、東京、千葉、愛知の連絡会、12月設立の長野の連絡会の代表などを含め、歯科医師や歯科技工士、市民など37人が参加しました。

総会では、歯科医療をめぐる情勢、活動報告と活動方針案が提案され、各連絡会の活動報告とともに今後の取り組みなどについて意見を出し合いました。千葉からは、妊産婦健診や障害者の歯科要求などを集め各自治体に対する運動にも取り組んでいること、東京では11月9日に浅草で宣伝行動を行い、105名が参加して歯の健康相談と署名活動を行ったことなどが報告されました。また自治体による意見書採択は、全国で313市町村（17.5%）で意見書が採択されている状況が報告されました。愛知からは、出前講演会や署名活動など

の他、保険でできる歯科医療技術を広げるための具体的要望項目（案）を検討していることを報告しました。参加者からは、「歯科医療は高額というイメージ。最近は若者でも口腔内の状態が悪い人が増えており格差社会を感じる」「患者・住民要求を具体的にあげていくことが必要」といった意見が出されました。岡山の参加者からは「ぜひ岡山県でも連絡会を結成したい」と決意を述べました。

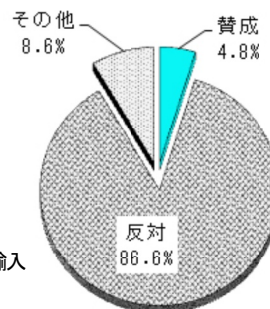
今後の取り組みとして、過半数の自治体での意見書採択、各府県での連絡会結成、新しい署名に取り組むことなどの活動方針を確認し、最後に新世話人を選出。愛知連絡会の大蔵会長が全国連絡会世話人に加わり、江原副会長も全国連絡会副会長として選出され終了しました。



87%が海外技工物の輸入に反対

「現在、中国など海外から入れ歯などが輸入されていることについて」は、反対86.6%、賛成4.8%、その他8.6%と回答、入れ歯などを海外から輸入することには強い拒否感があることが示されました。

図4 海外から「入れ歯」などが輸入されていることについて



保険治療の充実が切実

調査結果を見てみると、患者は「保険のきかない歯科治療」に強い不満をもつとともに、「新しい治療技術・材料」を保険に取り入れてほしいなど、歯科保険治療の充実を切実に求めていることを裏付ける結果となっています。